

【大阪の歴史散歩】

長柄国分寺・鶴満寺と鶯塚

地下鉄堺筋線・谷町線と阪急千里線の天神橋筋六丁目を降り、都島橋へ向かって東に500m、徒歩数分の左手に国分寺公園がある。公園のそばに真言宗の長柄国分寺がある。この寺は741年（天平13年）聖武天皇の発願で全国に建立された国分寺の一つである。寺伝によれば前身は孝徳天皇の菩提を弔うための長柄寺という。

この国分寺の真向いに天台宗の鶴満寺がある。この寺の創建は奈良時代といわれ、1753年（宝暦3年）この地に移った。境内は桜の名所として知られていたが明治18年の淀川の大洪水での氾濫で枯死したという。本堂横の銅鐘は国の重要文化財で、『太平十年（1030年）』の銘があり、高麗時代初期に朝鮮で鋳造された傑作である。もともと山口県宇部市にある宗隣寺にあって、この寺が荒廃し土中に埋もれていたのが、毛利藩の堤防工事で発掘され、当寺に寄進されたという。このほか、この寺に所蔵されている千手観音画像（府の有形

文化財）は、42臂の全身を金泥で塗り、衣に切金文様を施したもので、鎌倉時代末期の作といわれている。鐘楼のそばには俳人「鬼貫」（おにつら）の墓が大阪の後輩である俳人田原菊翁によって文化9年（1812年）に建てられ、その隣には菊翁自身の墓もあって、それらの背面に次の句が添えられている。

「おもしろさ 急には見えぬ すすきかな」鬼貫
 「なかぬ子を 啼いて育てる 蛙哉」 菊翁
 なお、鶴満寺の境内には昭和45年春の地下鉄工事におけるガス爆発事故の多くの犠牲者の慰霊碑が設けられている。

また、この鶴満寺から北へ数分のところに、大化4年（648年）没の鶯にまつわる伝説のある鶯式部の墓といわれる五輪の塔があり、鶯塚とよばれている。

天神橋筋六丁目までは地下鉄東梅田より4分。

